

## GY修了生からのメッセージ



加藤 みつき (GY5期生・経済学部卒)

就職先：株式会社ゼネラルパートナーズ

- きっかけは途上国。事業を通じた社会課題解決を目指す -

ゼネラルパートナーズは「誰もが自分らしくワクワクする人生」をビジョンに掲げ、「社会問題を解決する」「不自由を解消する事業を通じて、今までにない価値と機会を切り拓く」ために事業を展開しています。障害者の就職・転職を支援する人材紹介事業に民間で初めて着手した会社です。私は世界のどこにおいても、人々の抱える悩みや不便を、持続性のあるビジネスで解決する・解決のために貢献できる人になりたいと考え、現職に入社しました。こうした考えを持つに至ったのは、GYプログラムを通じた学びが大きく影響しています。GYプログラムを通じてボランティアインターンを実施させていただいた、v-shesh（インドの民間企業）での経験を通じて問題の原因や実態の把握のために深く考える必要性を学んだとともに、v-sheshの共同設立者の方とのお話を通じ、社会問題は今自分がいる場所にも沢山あるということに気付くことが出来ました。また、先生方の講義を通じて、見聞きしたことをそのまま鵜呑みにせず、自分の頭で考えることの大切さを学びました。仕事を通じて、初めて知った社会問題がありますが、問題を見過ごさず、原因・構造をしっかりと捉え、よりよい未来のために動くことを大切に、試行錯誤しながら私も社会に貢献していきたいと考えています。



土屋 健太 (GY5期生・教養学部卒)

進学先：東京大学公共政策大学院公共管理コース

就職先：国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

- 未知の世界へ一歩踏み出す勇気を -

私にとってGYプログラムが何であるかを一言で表せば、「未知の世界へ一歩踏み出す勇気」を授けてくれたものだと思います。プログラム開始早々に始まるハイレベルな英語講義、右も左も分からない中での海外留学、初めて訪れる国でのインターンシップ経験等、今振り返っても非常に刺激的な日々でしたが、自分独りでは到底やり抜く事が出来なかった事でしょう。しかしながら、GYプログラムの先生達やOB・OGの方々、何より志を同じくする同期の存在が、困難に直面した際の支えとなり、無事にプログラムを修了することができました。今この文章を読んでいる皆さんは、埼玉大学への進学を考えている高校生、あるいは国際開発に関心を持つ埼玉大学の1年生が多いのではないかと思います。皆さんを取り巻く環境が大きく変動する中、これから始まる大学生活や、将来に進む道の選択等、未知の世界に対する不安がある人もいるかもしれません。そんな皆さんに伝えたいことは、上手くいかないかもしれない、失敗するかもしれないと思いつめてしまうことは、とても勿体無いということです。面白そう、やってみたく少しでも思えるものがあるのならば、まずは一歩、踏み出して下さい。最初の一步は最も勇気が要りますが、同時に、最も成長に繋がります。GYプログラムは、きっとその勇気を後押ししてくれるはずです。



小嶋 早智 (GY5期生・教養学部卒)

進学先：一橋大学社会学部研究科

総合社会科学専攻 社会史アメリカ

就職先：公益財団法人 日本財団

GYプログラムを知ったきっかけは、大学入学前に届く様々な書類と一緒に入っていたプログラム紹介のチラシでした。留学や海外インターンシップなど、憧れていたことや挑戦してみたかったことがぎゅゅとつまっていて、ぜひ参加してみたいと思ったのを覚えています。一方で、当時英語を全く話せなかった私は、このプログラムをこなせるのだろうかと不安に思う気持ちもあり、しばらく応募をすべきかどうか悩んでいました。今振り返ると、あの時勇気を出して応募し、本当によかったと心から思います。留学先では様々な分野の授業を取っていましたが、特に印象に残っているのは春休み中に課外活動として参加した、LAでの困窮者支援のボランティアプログラムです。先進国内の貧困・格差や非営利業界についてさらに知りたい、考えたいと思うようになり、大学院進学や現在の就職先を選ぶきっかけとなった出来事でした。GYプログラムでは、他にも海外インターンシップや様々な必修科目の受講等を通じ、視野を広げられるほか、何より仲間の存在が非常に大きいと思います。留学前の厳しい英語の授業と一緒に励まし合いながら頑張ったり、講義の課題に取り組んだり、切磋琢磨し合える仲間と出会えたことはとても幸運でした。今こうだからと自分の可能性を狭めずに、興味があればぜひチャレンジしてみてください！



井出 森洋 (GY7期生・教養学部卒)

就職先：埼玉県立学校教員 (高校英語)

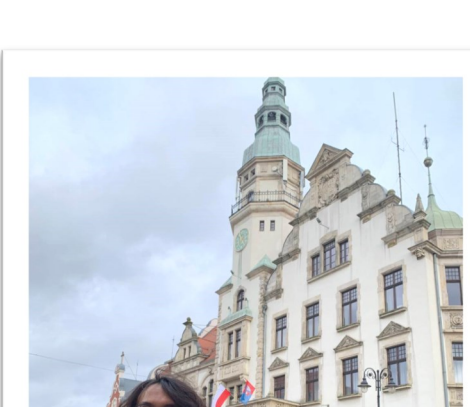
現JICA海外協力隊 (2023年1次隊)

活動地 モロッコ

「在学中に自分の経験として価値のあることをしたい」といった希望やそれに伴う不安は、多くの新入生が抱くものだと思います。過去の私も例に漏れずその1人でしたが、それらの感情は「大学デビュー」をしたいという漠然とした、しかしながら強烈な原動力になっていました。そして、あるガイダンスでGYについての説明を受けた時には「これに申し込もう！」と心が決まっていたのでした。目標が決まってからは、日々具体的に何をすべきかが分かるようになりました。必要な英語スコアを取るために毎日英語を4時間は勉強していたと思います（記憶は美化されるものなので実際にはもっと少なかったかもしれません）。そして無事にGYの一員になった後も、そのような努力を継続することができました。自分ひとりでは重い腰の中々あがらない性格ですが、GYに関わる教授、スタッフ、先輩、同級生は皆バイタリティに溢れており、あの環境にいながら怠惰であることの方が難しかったでしょう。他の方の記事を読んでいただければその一端が垣間見えると思います。GYに入る最大のメリットはこの部分、すなわち集まる人たちにありと感じています。

月日は流れ、この記事を書いている今現在、私はアフリカ大陸の西北端に位置するモロッコという国でJICA青年海外協力隊として活動をしています。大学を卒業してから埼玉県立高校の英語教員をやっておりましたが、いったん2年間の休業を取得して参加しています。この選択も、GYを通じてJICAの取り組みを知り、途上国インターンシップなどを在学中に経験していなければできなかったらと思います。具体的な活動としては、主にPCインストラクターとして職業訓練校などでオフィスソフトの使い方の授業をする他、英語の授業も個人的に行っています。自分自身のレベルはどちらも一流からはほど遠いですが、活動と並行しながら勉強し直すことで十分貢献できているように感じられます。また、これらの活動自体が自分にとってのリカレント教育(学び直し)になっている点が協力隊活動の利点の1つだと考えています。そして、この点で協力隊は実は学生にとっても挑戦する価値のあるものではないかと思っています。長期派遣だと2年間、短期派遣であれば夏休みを利用して1か月間だけということも可能です。宣伝のようになっていますが、興味があれば是非調べてみてください。

最後まで読んでくださってありがとうございました。皆さんが今取り組んでいらっしゃる事が順調に進みますように願っております。それが特にGYなのであれば、同じ場所に所属した身として応援しております。私も残りの任期、活動や自分自身の成長を楽しみつつ頑張っていきたいと思っています。



瀧 孝輔 (GY10期生・教養学部卒)

就職先：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

海外緊急人道支援課 所属

- 「学ぶ姿勢」を学ぶ。 -

GYプログラムを通して、未知の世界を冒険することの楽しさを学びました。そして、自身の無知を常に自覚し、学び続ける姿勢を学んだと考えています。

現在、私は、NGO職員として緊急人道支援の仕事をしています。ポーランドでの留学経験、そしてインターンシップの経験が、現在の仕事に活かしています。今、振り返ると繋がっていたと言えることが可能ですが、進路に向け計画的な学生生活は送ってはいません。むしろ、自分の興味を決めきれず、悩みながら、フラフラした学生生活をしていました。そんな流浪の学生生活を送る私にとって、「社会課題の解決に貢献できる人材を育成する」ことを目的とするGYプログラムは、最低限の道標でした。国際社会での経験豊かな先生による授業や様々な挑戦をするGY生や先輩との交流は刺激的な経験でした。時に自分の間違いを正してくれたことや、GY室で夜遅くまで議論したことが、自分を成長させてくれました。社会問題を解決することは難しいですが、それでもあきらめず、無知を自覚し、謙虚に学び続けることの大切さを学びました。

これを読んでいる人は、進路を考える高校生から大学1、2年生かと思います。就職活動の早期化が言われ、プレッシャーかと思っています。「就職に役に立つか」が学生生活の大きな判断基準になっているかもしれません。しかし、ぜひ学生時代だからできることに挑戦してみてください。世界は広く、複雑で、一生私たちは無知です。だから一見ムダそうに思えることをやってみる。そんなことが、思いがけず心の余裕を作ってくれて、本当の意味での、「自分らしさ」を作ってくれるかもしれません。最後にコロナの時に学生だった私から二ポイントです。一つ目は、大学はどれだけ利用しても、学費は変わらないということです。なので遠慮せず、たくさん利用して、色んな挑戦をしてみてください。二つ目に「中学生・高校生の時はコロナで…。」は、社会的に認められる言い訳だと思います。挑戦して、失敗したら、コロナを言い訳にしましょう。きっと無傷です。なので、やりたいことをやりまくりましょう。GYプログラムは、そうした人を応援してくれる環境があると思います。



今後先輩の活躍をお届けしていきますので楽しみに！